

JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2024

京都の受賞者へ賞状を授与

JICA が実施する「[国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト](#)」について、2024 年度は「未来の地球のために ～私たちにできること～」をテーマに作品を募集しました。この度、全国からの応募総数 36,202 作品(中学生の部:16,526 作品、高校生の部:19,676 作品)の中から、「国内機関長賞(JICA 関西所長賞)」を受賞した生徒の学校を JICA 関西が訪問し、賞状を授与します。訪問時には、世界に関心を寄せる受賞生徒と国際協力経験豊かな JICA 関西・[京都デスクの国際協力推進員](#)が、国際協力や SDGs 等について懇談予定です。

世界とのつながりがますます深まる現在、未来と地球のために、生徒たちが何を学び、どのような行動をしようとしているのか、ぜひ取材ください！

受賞生徒、学校教諭、京都デスクへのインタビューが可能です。

【日程】 2 月 17 日(月)12:55～ (30 分程度)

学校名	賞	学年	受賞作品名	学校所在地
学校法人永守学園 京都先端科学大学 附属高等学校	国内機関長賞	1	無償の支援は麻薬	京都市右京区 花園寺ノ中町8
	特別学校賞(※)			

(※)5 年以上連続で学校賞(60 作品以上または全校生徒の 3 割以上の応募があった学校)を受賞した学校が対象

【日程】 2 月 19 日(水)15:30～ (30 分程度)

学校名	賞	学年	受賞作品名	学校所在地
京都市立音羽中学校	国内機関長賞	3	「ちょっと」	京都市山科区 大塚野溝町86

取材希望の場合は下記連絡先まで事前にご連絡ください。

【本件に関する問い合わせ先】
JICA 関西 市民参加協力課 浅田 瑠理 TEL:078-261-0384 E-mail:Asada.Ruri@jica.go.jp

<参 考>

【受賞作品概要】

●国内機関長賞 京都市立音羽中学校 3年

タイトル:「ちよつと」

小学校六年生の時、いつも通り道にゴミが落ちていたが、その時ふと「拾うべきだ」と思い下校中に道のゴミ拾いをした。マスクやたばこは多すぎて拾えなかったものもあった。通学路でゴミを拾った経験から「ちよつと」の大切さを学んだ。ペットボトルや缶を拾い、分別して捨てたことで、周囲から称賛され環境改善もでき、「ちよつとやってみよう」と思ったことから幸せや達成感を感じた。世界の皆の「ちよつと」した行動で環境改善はできると思う。

●国内機関長賞 学校法人永守学園 京都先端科学大学附属高等学校 1年

タイトル:無償の支援は麻薬

欲しがると同時に与えた結果「ねだる」ということを教えてしまった、というバックパッカーのフィリピンでの体験談を聞き、支援について考えさせられた。「無償の支援は麻薬」という言葉を痛感し、持続可能な支援をすることが重要であると思った。例えばお金を渡すよりその使い方を教える方が持続可能だ。支援方法を考え直し、自立できる国づくりを目指すべきである。私はどんな支援が自立に繋がるのか考え、支援に参加したり、日本で行われている支援を調べて周りに伝えていきたい。

【関西の応募(審査作品)総数】

都道府県	中学	高校	全体
滋賀県	1,001	324	1,325
京都府	479	981	1,460
大阪府	1,089	1,165	2,254
兵庫県	292	633	925
奈良県	396	7	403
和歌山県	89	17	106
計	3,346	3,127	6,473

賞の種類(中学生・高校生共通) :

個人賞 最優秀賞 3名
(JICA理事長賞、外務大臣賞、文部科学大臣賞)
優秀賞 3名
審査員特別賞 4名
国際協力特別賞 10名
国内機関長賞 各都道府県1名以下
佳作 70名程度
【副賞】最優秀賞・優秀賞:海外研修
その他個人賞:フェアトレード商品
【参加賞】応募者全員(バナナペーパーステッカー)
学校賞 60作品以上または全校生徒の3割以上応募(副賞:表彰メダル)
特別学校賞 5年以上連続学校賞受賞(副賞:表彰楯)

【エッセイコンテストの概要】

次世代を担う中学生・高校生を対象に、エッセイを書くという行為を通じて、国際協力について考えてもらうきっかけを提供し、開発課題や国際協力への興味・関心を高めてもらうことを目的に実施。1962年度に「海外移住懸賞作文」として開始され、2024年度は高校生の部が63回目、中学生の部は29回目を迎える事業。

最終審査員長は中学生の部に尾木直樹氏(教育評論家・法政大学名誉教授)、高校生の部に星野知子氏(俳優・エッセイスト)を迎える。

国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト HP (右 QRコード参照)

